

8年前、クラブ通信あおぞらに「けんかとそうでないもの」を書きました。今日まで変わることなくクラブの大切な要となっている「振り返り」を、再び皆さんにご紹介したいと思います。

## けんかとそうでないもの

～平成15年～

子どもたちがよく起こすトラブルの中にけんかがあります。クラブでも日常茶飯事です。見ていて、今、手を差し伸べるべきか、もう少し人生経験をしていただくために、成り行きを見守ることにしようか、毎日悩むところ…

子どもたちにとってクラブは、自然な感情を素直に表すことができる大切な「居場所」になっています。自分の気持ちと他人の気持ちはいつも同じにはならない・・だからぶつかる。でもけんかはとてもいやなもの。人を傷つける、また人に傷つけられると、自分自身の心がすごく痛い。周りの大人は見るに見かねてすぐ手を出してしまいがちですが、痛い、辛い、苦しい、こういった体験は将来への大切な宝物になるはず。宝を得る絶好のチャンスを、近くの大人たちが簡単に奪い取ってしまうことのないようにと願います。

そう思いながらも実際にけんかが起きる場面に遭遇してしまうと、今すぐ口出ししてはいけない…でもこのまま大人が見ているだけでいいのかしら…と悩むのです。

いずれにしても、成り行きの結果、子どもが

「あの時あっちはこう思っていたんだなあ、だったらこんな言い方すればよかったかも」

そういう「振り返り」が出来るように、時間と忍耐は必要だけれど、後方からゆったりと支援していきたいと願っています。

「振り返り」をする場面には親よりむしろ他人の支援が有効だと感じます。親であれば誰も同じ、わが子への期待が強いため、なかなか冷静で落ち着いた対応が出来ません。その場でムカッとし言いたくない言葉までも滝のように流れ出てしまい、後で泣きはらした子どもの寝顔にむかって「ごめんね…」とささやきます。やはり、真正面の関係は、互いにきついものなのです。



こんなとき、周りの人の手は、子育て中の親にはかなり楽になるでしょう。指導員は、親でもなく友達でもない、縦でも横でもなく「斜めの関係」です。いい意味で親よりちょっぴり無責任です。また近所でいろいろ声掛けして下さるおじさんやおばさん、おじいちゃんやおばあちゃんも大切な「斜めの人たち」です。

また、そうではないもう一つの場合に、気を付ける必要があります。けんかではなく「ストレスのはけ口」によるトラブルです。これには要注意。子どもにとっては相手が誰でもいいので、当然仕返しが自分に来ないほうがいい、だから、物にあたる、あるいはたまたま居合わせた自分より弱い者に向いていきます。そこに理由や正当性はなく、ただ「ウザい」「キモい」意味のない言葉が飛び交います。

こういう時、キレている状態の子は興奮しているため全く聞く耳を持ちません。指導員が介入してすぐに引き離さないと誰かが確実にけがをすることになってしまいます。

けんかといじめの違いも、こういった視点で子どもと接していると自然に見えてくるように思います。

けんか、それも健全なけんかとは互いの意見相違から来るもめごとです。子ども達から「大人は入るな！」なんていう勇ましい声が飛び出し指導員の方が面喰って「あらあら出しゃばっちゃってごめん」そうこうしている間に「なんだか仲直りしちゃった～」という場面がたくさんあります。これが健全なけんかです。

また、いじめとは「ストレスのはけ口」によるものです。根っこはいじめる側にあり、いじめられる側に理由などあってはなりません。この理由ならいじめていいよ、なんてことはあり得ませんから。

# けんかをしない子どもたち

～平成 23 年～

さて、ここから書くのは今日のクラブです。最近の傾向はかなり深刻になってきています。タイトルに書いた通り、「けんかをしない」もつとえば「けんかが出来ない」のです。幼い頃に「けんかをしちゃだめ」と言われたことがずっとインプットされているのでしょうか？

意見の違い＝ケンカ＝悪いこと

こんなふうを考えるようで、自分の気持ちを言うこともしない子が急増しています。

入学したばかりの1年生でもすでに陰口があります。顔は笑っているのに、いつのまにか血が出ていて

「ここ、どうしたの」

と指導員があわてて聞くと、ただ下を向いてだんまり状態。指導員がケアしながらようやく発した言葉が

「〇〇ちゃんに～された…」

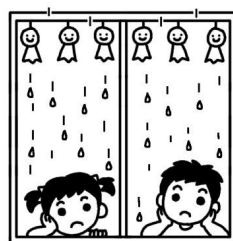
となります。それまでの間、いやとも言わずにずっと黙っているのです。そうこうすると、子どもたちは無言、互いにもつれ合っただけの状態です。倒れていることもあり、指導員が介入してやっとの思いで引き離し

「なにがあったの？」

…さあ、またここから話しますまで、何分も要します。

互いに無言のまま、いきなり手が出る、急に居なくなってしまう、ふと見たらケガをしている、ただずっと泣き続ける、隅の方で下を向いて顔を伏せ小さく固まっている…。

4月に入学してきたばかりの1年生に対し、指導員は時間をかけてゆっくりじっくり関わります。もちろん全員ではありませんが、こんなふうに、大人が向き合う必要のある子が、年々増えているように感じます。



子どもがキレた後、指導員とともに「振り返り」をしながらようやく冷静になったとき

「そのときのことあんまり覚えていない」

こんなふうに言うことがよくあります。私たちは、以前にもまして「振り返り」が大切だと痛感するのです。

あのとときの自分はどのように怒っていたんだろう。何がきっかけでそうなったのだろう。

なにが悔しかったんだろう。

気持ちを「言葉」にして、  
ゆっくり思い出し、ひとつ  
ひとつ確かめながら、  
静かに考えてみる・・・  
これが「振り返り」です。



以上のことから今クラブに必要なのは、子ども達が周りから離れて静かに自分を振り返ることができるような十分な「場所」と「時間」を、一人一人保障してあげることなのです。幸い、田子は、クラブ施設が2ヶ所に分割され、南北ともにゆったりと過ごせる空間を与えられているのも感謝したいところです。

うれしいことに、私たちは4月からずっと「振り返り」に取り組んできていますので、子ども達の気持ちがずいぶん声になってきて、いまや健全なケンカもちらほら見せてくれます。

これからも、子どもたちといっしょに、楽しいことばかりでなく人間関係でたくさんの失敗や気まぐれ経験をし「振り返り」をしながら、共に成長していきたいと願っています。

